2022 年 6 月　No.59

JEA ニュース

心を一つにして福音の信仰のために力を合わせて戦い（ピリピ 1:27）

Japan Evangelical Association

目次

巻頭言　1
宣教研究部門担当者会議・JCE7 地区大会　2
JCE7「東海宣言」　3
流れのほとりで　4-5
牧師の本棚「スピリチュアルケアと教会」
社会委員会・信教の自由セミナー報告書　6
青年委員会・青年宣教サミット 2022　7
JEA アップデイト　8
総務局から

「虹が雲の中にあるとき、わたしはそれを見て、…永遠の契約を思い起こそう」（創世記 9:16）

JCE7 に向けて「ウラカタの夢」

神学校時代の友人 A は、ニヒルな笑みを浮かべながらシニカルなことを言う、クレバーな男でした。

そんな彼との久々の再会は、2016 年 9 月、神戸の第 6 回日本伝道会議（JCE6）でのこと。「あら？ちょっとお腹がぽっこりした？」などと、まずは悲しき中年トーク。ほどなく、彼はニヒルな笑顔を浮かべて、世界的な先生の講演に対する感想を口にしました。「特に目新しいことはなかったな」相変わらず (お腹は出てきても) シニカルで、クレバーな男！私は「懐かしい！これぞ A ！」と嬉しくなりました。

コロナ禍で様々なものが奪われ、制限されています。雑談もその一つでしょう。

熱い議論が重ねられ、JCE7 のプログラムが構築されつつありますが、私が属する事務局はほぼノータッチ。裏方の一員として願っていることの一つは、長良川国際会議場に「雑談の花」がたくさん咲くことです。「懐かしい。元気だった？」、「オンラインでは何度も顔を合わせましたけど、リアルでは『初めまして』ですね」、「こんなに背が高い方だったとは知りませんでした」などなど。

ある大学教師が、対面授業の再開をこう綴っています。「大学に雑談が戻ってくる。どんなにガイドラインの目が厳しくても、人と人とが同じ空間にいれば、雑談は花を咲かせてしまう。ガイドラインの隙間に、雑談が生い茂る。それは多分、大学だけじゃない。人は人を怖がったり、嫌いになることもあるけれど、結局人を求めることをやめられない。生身の人間がそこにいる。それだけでわけもなく嬉しくなってしまうのが私たちだと思うのだ。」（東畑開人『心はどこへ消えた？』）

牧野友隆
JCE7 事務局長
JECA

先の見えないコロナ禍中ですが、JCE7 が「生身の人間がそこにいる」喜びに満ち、「雑談の花」が咲く場所となりますように。そしてニヒルな笑顔や満面の笑み、涙や励まし、共感や批判、悔い改めや祈りを共にし、日本各地で、いや海を超えて、友情の実が、宣教の種子が分かち合われますように。そのための準備を、開催地の方々とご一緒に進めています。

「見よ なんという幸せ なんという楽しさだろう。兄弟たちが一つになって ともに生きることは」（詩篇 133:1）

どうぞ JCE7 へ、長良川国際会議場へ、おいでください。なお、JCE7 は登録制となっています。ご登録いただいた団体の方のみが対面でご参加いただけます。今年 8 月末までが登録期間で、その後、各登録団体に参加希望人数をお尋ねしつつ、調整をさせていただきます。まずは下記 JCE7 公式サイトよりご登録をお願いいたします。（https://jcenet.org/jce7/）

今年は「JCE7 一年前キックオフ大会 ～宣教フォーラム in 岐阜～」を 9 月 19 日 -20 日に同会場で開催予定です。まずはこちらでお会いできれば幸いです。

宣教研究部門・担当者会議

松沢実喜男　宣教委員
宣教研究部門
日本ホーリネス教団・神戸教会

「教会の現場における IT の可能性」

去る 2022 年 5 月 9 日（月）13:00-15:00、各団体の IT 担当者がオンラインで集まって、担当者会議を行った。今回は「教会の現場における IT の可能性」と題して、長谷川忠幸氏（日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 境港キリスト教会牧師）と水梨郁河氏（hi-b.a. スタッフ）による講演をお聞きした後、グループに分かれて、各団体の IT の活用状況の情報交換を行い、課題や展望について話し合った。

まず長谷川師は、県内の 100km 以上離れた教会をオンライン礼拝で 13 年以上兼牧する中で培ってきた経験を語ってくださった。パソコンが苦手な方も、今では遠隔操作でつなぎ、また「LINE」なら使えるという教会員には、その環境に合わせた接続方法が用いられている。ただし礼拝が（公の）礼拝であるために、相手の反応が分かる「双方向」を大切にし、特に、礼拝後には、離れた場所にいるお互いの挨拶や、個人の紹介も決して怠らない。またそのような多様な接続でも、お互いの顔を見ることを可能にする「vMix」というソフトウェアがあることも紹介してくださった。それによって、最近は、県をまたぐ複数の教会と、そこに属する教会員がインターネットでつながって、一体感を失わずに毎週礼拝しているとのことである。

このような「多様な接続方法」での「双方向」オンライン礼拝が今後、無牧・兼牧教会や、季節によって自然環境の厳しくなる地方教会、ご高齢の方々をたくさん抱える教会では、教会員の教会とのつながりを確保し、さらには、1 人でも多くの人に福音を届ける備えになるのではないかと思われる。長谷川師もこの形が最善とはしないものの、オンラインだからこそ届くことができる人もいることや、その広がりの可能性を実感してきているとのことであった。

次に水梨スタッフは、IT をどう戦略的に用いるかについて、hi-b.a. の取り組みを語ってくださった。何よりも IT による宣教では、ウェブ検索にひっかかる「言葉選び」と、いかに「多く・長く見てもらう工夫」をするかが（検索エンジン会社がそれを測定し、検索され易くしているため）大切だと言う。そのため hi-b.a. では、動画再生回数や、YouTube の機能（無料）の「アナリティクス」の数値を確認しながら、どうすれば目にとまり、最後まで見てもらえる内容になるかを日々考えているそうだ。また、スマホを取り出す機会というのは「隙間時間」が多いことに着目し、短時間のものを提供するようにしているとのことであった。

もちろん、戦略的という言葉の中で「切り捨てている部分」については、どこかで補わなければならないことは充分に承知している。しかし、的を絞り、とにかくきっかけを作ることに特化した活用方法もあるということだ。このように、多くの示唆を与えてくださった 2 人の講演者に心から感謝しつつ、今回の担当者会議の報告としたい。

JCE7・地区大会について

福井　誠
JCE7 プログラム局
玉川バプテスト教会

2023 年 9 月岐阜市の長良川国際会議場で開催される本大会まで、準備期間後 1 年弱というところまで来ました。いささか、地区大会の企画も押せ押せで、遅れ気味のところもございますが、実際には、今回の大会理念の一つでもある、草の根的な活動の展開ということからすれば、十分時間をかけながら進められている、ということでもあるのでしょう。ともあれ、本大会に向けて、全国レベルの地区大会を進めていくにあたり、ぜひ皆様のご理解とご協力をお願いしたく思っております。

そこで地区大会の役割について言えば、それは、基本的に伝道会議本大会に向かう意識と行動を共有し、日本の諸教会が 2023 年 9 月岐阜に結集できるようにするためのものですが、JCE7 の場合は、その限りではありません。

1. 東海宣言を共に形作るために

宣言文の頁で述べていますが、地区大会においては、皆様から寄せられた様々な声を参照しながら作成された JCE7 東海宣言（仮称）草案を検討する時間も設けたいと考えております。つまりその時間は、単純に伝道会議への機運を高めていくためのものではなく、宣教を効果的に推し進める「東海宣言」を共に考え、意見を述べ、2023 年 9 月、岐阜において、神の御前に心からの一致をもって共に誓約をするためにも設けられているのです。

そこで現在、急ピッチで、各都道府県の種々の宣教ネットワークの協力を得ながら、担当者を決め、北海道、東北、北陸、中部、中国・四国、東海、山陰、九州、沖縄など地区ごとに、ハイブリッド方式で大会を開催する準備を進めております。

2. 宣教インフラネットワークを形作るために

さらにこの地区大会によって、宣教協力のネットワーク整備を同時に進めていく計画があります。現在、放送伝道協力会、地域牧師会、震災ネットワークなど、様々な宣教協力ネットワークが全国的に散在している状況があります。しかしそれらを有機的に、縦横につなげ、ネットワーク内で自由に個人と個人、団体と団体が必要に応じて対話を進めるネットワークは、まだできていません。今回の地区大会では、その準備を進めるために、地区レベルのみならず、全国レベルでつながり、担当者が互いに情報共有、交換のできる担当者限定のオンラインプラットフォームを準備していく予定です。これによって、教派・団

（Page 3 に続く）

JCE7「東海宣言」について

福井　誠
JCE7 プログラム局
玉川バプテスト教会

1. JCE8、9 に至る重要な位置づけ

神戸で行われた第六回日本伝道会議（JCE6）では、2023 年、つまり JCE7 までの 7 年間を、リビジョンのプロセスとする提言がなされました。つまり、宣教協力のビジョンを再構築する方針が打ち出され、種々のプロジェクトが発案、実施されました。本来ならば、それらプロジェクトの成果に基づいて JCE7 のテーマ設定がなされるはずでした。しかしながら、そのプロセスの途上、全世界がコロナ禍に襲われ、その影響は日本のキリスト教会にも色濃く及びました。2 年以上も続いてきたコロナ禍に揺さぶられる中、リビジョンのプロセスは、ある意味でリセットと言うべき様相を呈し、さらに教会や宣教の本質を深く問う方向へと向かったと言えます。

こうして JCE6 の目的からしても、また前代未聞の歴史的な要請からしても、この JCE 7 は、これからの日本のキリスト教会を、つまりは JCE8、9 の方向性すら決定づける極めて重要な位置に置かれたと言えます。

2. 現場の声を集めて検討する

そのような状況を踏まえて、プログラム局では、宣言文作成において、改めて神のみことばに聞く姿勢を明確にしています。また神が上から示されるビジョンは、私たちの思いを遥かに超えたものであるとしても、私たちの現実の歩みに即したものであることにも間違いありませんから、現場の声を広く集める試みを始めました。すでに、東海宣言（仮称）作成へのお願いを、各教団教派、諸団体の事務局に送付させていただき、多くの回答をいただきましたが、これらは宣言文作成にあたり、コロナ禍が加わることで宣教の現場で今何が起こっているのか、古くからあった課題と新しく起こりつつある課題が何で、それらを日本の教会はどのように乗り越えようとしているのかを見ていくものです。当初情報収集期間は 2022 年 3 月一杯としておりましたが、未だ十分な情報を集めたとはいえず、さらに期間を延長することにしております。ぜひ、オンラインサイトへおいで頂き、情報提供に協力をいただきたく願っております。「JCE7」で検索、トップページを下へスクロール「JCE7 東海宣言（仮称）作成へのお願い」をクリックしてください。

3. 聖書的観点の検証を加える

このようにして皆様から寄せられた声は、宣言文作成委員会のメンバーにより、聖書的、神学的観点から検討を加え、宣言文草案作成に活用されることになります。ですから、忌憚のない、ありのままの現場の声をお寄せください。

なお宣言文作成委員会は、聖書宣教会校長の赤坂泉氏を主任とし、超教派のバランスを考慮して、10 数名で構成されています。ことにメンバーには 30 代、40 代の若手の牧師、信徒が起用されおり、彼らの視点、感覚、信仰から様々な議論が重ねられ、草案が日々練られています。もはや次世代を育てるというのではなく、むしろ、次世代が担い、作成する宣言文となることでしょう。

4. 牧師と信徒共同の誓約を目指して

作成された宣言文草案は、2023 年 9 月岐阜の本大会を前に、順次開催されていく日本全国におよぶ地区大会において検討され、さらに練られていきます。それによって本大会当日に、伝道会議参加者が、確信をもって自らのことばとして宣言できるものであることを目指すのです。

これまで宣言文と言えば、神学専門委員会、いわばごく一部の専門家によって検討されて伝道会議で公開されるものでした。しかし JCE7 の宣言文は、日本の各地域の現場との対話を重ね、1 年以上の期間を重ねて作成されるものです。またそれは、伝道会議前に、出版物として公開され、確認されます。

大切なのは、その現場との対話に信徒が加えられることです。実際 JCE7 においては、半数以上の信徒の参加を期待しています。これまで牧師と信徒の共同による宣教という課題は、久しく繰り返し語られてきましたが、実際の伝道会議に信徒が牧師と一緒のテーブルに着くことはなかったでしょう。しかし、コロナ禍にあって考えさせられた教会の初代教会的本質は、牧師信徒の区別なく、一人ひとりの魂に神のいのちがあり、そのいのちによって宣教が進むということです。これまでの伝道会議、否、宣教そのものの流れを共に変えていく、実践的、実効性のある宣言文がまとめられるように、続けて主の助けを祈っていただきたく思います。どうぞよろしくお願いいたします。

（Page 2 から続く）

体を超えた、牧師および信徒による宣教協力のネットワークが、JCE 7 までに出来上がることが期待されます。またこのシステムが JCE7 以降も持続されることで、超教派の全国的な、宣教協力のインフラ整備が一挙に進むことが期待されます。

なお各大会の概要や実際の大会がライブ配信で閲覧できるサイトも作成される予定ですから、これらすべてに参加するなら、本大会参加に向けた十分な準備ができることになるでしょう。

3. 次世代が動き出すために

なおこの地区大会開催は、例外なく、30 代、40 代の次世代の牧師によって進められることが計画されています。次世代育成と掛け声をかけるのではなく、実際に次世代に働いていただくのです。まさに「新しいぶどう酒は新しい革袋に」です。そして、50 代以上の方々はその経験値を生かして側面からサポートし、その働きを強化していきます。古い世代は、新しい世代に道を譲るというのではありません。むしろ、古い世代でなければ、また新しい世代でなければ、それぞれできないことがあるはずで、互いが共に力を尽くすのです。そのようにして共に、日本の新しい宣教が JCE7 と共に幕開けしていくことを期待してまいりましょう。ぜひ、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

流れのほとりで

No.30

宗形友子　女性委員
流山福音自由教会
ユリ・ナカノ　女性委員
JEMA 宣教師

第８・９回かたりばオンラインに参加して

「第８回かたりばに参加して」（宗形友子）

1 月 18 日（火）に「災害発生！被災地支援やる？やらない？」と題してハンガー・ゼロで様々な被災地支援を行ってこられた伊東綾さんからお話を伺いました。

どのような災害が襲ってくるかは地形によって変わってくるので、自宅や教会周辺の地形を把握しておくことが備えとして大事なことだそうです。災害が発生してから 3 日間は外部からの助けはないものと考え、その間どうするのかを教会や家庭で事前に話し合っておく必要があり、災害の備えが大切だそうです。同時に、教会堂を避難所として使えるように備え、地域の人々との関係を築いておくことが大切なのだと改めて思わされました。

キリスト者として、困っている方がいれば手を差し伸べ、福音をお伝えしたいのですが、被災された方に対して、言葉ではなく振舞いを通して神さまの愛を伝える大切さを思います（ローマ 12:15）。

支援者の振る舞いによって、神さまの愛の種は蒔かれ、やがて芽を出したなら、現地の教会の刈り取りの働きを任せることが大切だと教えられました。愛の心をもって信頼関係を構築し、被災された方から神さまの話題を振ってくれる時を待つ、ということも肝に銘じました。

「第９回かたりばに参加して」（ユリ・ナカノ）

2022 年 4 月 21 日（木）「不登校の子どもたちと歩んで」というテーマについてオンラインで集まり、ともに学び、分かち合いました。講師の藤田真木子さんが適応指導教室指導員としての 23 年の経験を通して分かりやすく不登校の子どもたちへの対応を教えて下さいました。

カナダで生まれ育った私にとって、この話はとても興味深いトピックでした。日本に来てから不登校で悩まされている家族にたくさん会いました。日本では２０万人もの不登校生徒がいると今回の「かたりば」を通して知りました。印象に残った言葉は藤田さんの友人のアドバイス「家庭は意心地に良い場所にしてね。家が安心な場所であったら、安心して家から出ていくから大丈夫。」

藤田さんは三つの点について話されました。（１）適応指導教室とはどのような場所か（２）不登校の子どもたちがたどる段階（３）不安から安心へ。藤田さんのお話の重要点は「こどもに安心を」でした。７つの「安心」を子どもたちにもってもらうことが大事だそうです。「存在を認めてもらう」、「聞いてもらう」、「正しく評価される」、「可能性を伸ばしてくれる」、「待ってくれる」、「失敗してもやり直せる」、「将来に希望を持てる」安心を届けることを強調しました。

第１０回「かたりば」記念講演会のお知らせ

野寺恵美　女性委員長
日本同盟基督教団・赤羽聖書教会

それぞれの持ち場は違っても、主からビジョンをいただいて今まさに働いている女性、これから働きを始めたい女性、学びたい女性、後ろで支えたい女性たちが共に集まり、学び合い、分かち合い、つながっていこうと 2019 年 10 月から始められた「かたりば」も 2022 年 7 月で 10 回目を迎えます。

コロナ禍で中断した時期もありましたが、オンラインを用いることで全国からの参加が可能となりました。またアーカイブ視聴の導入で当日の参加が叶わない方々にも、部分参加が可能となりました。そして講師の方々の多岐にわたる意義深い働きに、参加して話を聞きたいという男性からの声にも応えることとなり、その輪は広がっています。

今回は、JEA 女性委員会の立ち上げに尽力し、初代委員長を務め、また長年、献身者教育、女子教育に心血を注いで来られた湊晶子師をお迎えして、～90 年の人生から見えてきたこと～「ぶれない個・私・人格」の大切さというテーマで講演会を行います。

オンラインですから全国どこからでも参加できます。アーカイブ視聴による参加も可能です。男性の参加も歓迎します。皆さん、「かたりば」でお会いしましょう！

アジア福音同盟（AEA）女性委員会 D6 ファミリーカンファレンスへようこそ！

岩上真歩子　女性委員
日本ホーリネス教団・久喜キリスト教会

「聞け、イスラエルよ。主は私たちの神。主は唯一である。あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。私が今日あなたに命じるこれらのことばを心にとどめなさい。これをあなたの子どもたちによく教え込みなさい。あなたが家で座っているときも道を歩くときも、寝るときも起きるときも、これを彼らに語りなさい。」

（申命記６章４～７節）

アジア福音同盟（AEA）女性委員会では、アジアの教会における家庭内暴力の問題への取り組みを継続しています。その中で、教会と家庭での姿があまりに異なるクリスチャンの姿が浮き彫りになりました。福音が教会の中だけに留まるのではなく、家庭での信仰生活・信仰形成がなされていくために、教会はなにをすればよいのだろうか。この問いに取り組むべく、「Ｄ６ファミリーミニストリー」と協力し、６月９日～11日「Ｄ６ファミリーカンファレンス」を開催することとなりました。

「Ｄ６ファミリーミニストリー」について少しご紹介します。「Ｄ６」とは、申命記（Deuteronomy）６章を意味します。申命記６章の原則に基づき、教会と家庭をつなぎ、全世代の弟子訓練、信仰形成を目的としています。「次世代育成」という言葉をよく耳にします。「次世代」というと「十代や幼い子どもたち」を意味し、「次世代育成」とは「成人の信仰者が若い信仰者を育てる」というイメージがあると思います。一方、D6は「次世代」ではなく「全世代」の信仰形成に目を向けます。つまり、赤ちゃんから高齢者まで、それぞれが教会においてだけではなく、家庭においても信仰生活を営み、キリストの弟子として成長することです。そのためには、教会が大人も子どもも福音に生きるようにと導いていく必要があります。教会には、子どもミニストリー、ユースミニストリー、成人対象のミニストリーなど様々なミニストリーがあると思います。そこに「ファミリーミニストリー」を別に加えるのではなく、「教会と家庭をつなぐ信仰形成」という指針がすべてのミニストリーに織り込まれていくことで、「全世代の弟子訓練」をしていこうというのが「D6 ファミリーミニストリー」なのです。

日本からも多くの参加者をと願いつつ、通訳を入れる準備をしてきました。「教会と家庭をつなぐ全世代の信仰形成」は、なにも新しいことではありません。聖書が教えている真理であり、長らく教会が取り組み続けていることです。それでも、アジアの教会がそうであるように、日本においても、その実践に難しさを覚える現状があることもまた事実ではないでしょうか。D6 ファミリーカンファレンスは、毎年開催される予定です。今一度、教会においてだけではなく家庭においても福音に生きる信仰者として、聖書の教えに立ち返り、全世代の信仰形成に取り組むためにも D6 カンファレンスにご参加ください。「全世界に出て行き、すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい。」（マルコ 16:15）

新委員自己紹介

秦 裕香里　女性委員
JECA・夙川聖書教会

副牧師としてお仕えして７年目です。レーナ・マリアさんのコンサート事務局として日本各地を回る中で、大衆伝道や音楽伝道をした経験から、地域教会に仕えることや個人伝道に思いが向けられ、大学生伝道師として母教会に献身し、その後アメリカの神学校で学びました。

この度、日本福音キリスト教会連合（JECA）から若手の女性教職を、ということで女性委員のお話をいただきました。JEA の働きを通して、日本の福音宣教の前進のために日本全体と世界の現状を知り、実際に仕えることで、教会協力の祝福を知ることができればと願っています。どうぞよろしくお願いします。

JEA 神学委員会

『スピリチュアルケアと教会』

（窪寺俊之、いのちのことば社、2021 年）

吉川直美　神学委員
聖契神学校

本書は、2019 年に神戸改革派神学校で行われた、窪寺俊之先生による公開講演の記録です。ライブ感のあるディスカッションも、講演ごとに収録されています。

「スピリチュアルケア」という言葉は、キリスト教界では耳慣れず、胡散臭い療法ではないかと警戒心を抱かれがちですが、終末期医療の現場では、患者が直面する苦しみ、死への恐れ、罪責感といったスピリチュアルペインに寄り添う働きとして、日本でも市民権を得つつあります。それには、保守的な信仰を保持されながらも、医療者を対象に言語化して来られた窪寺先生の、先駆的な臨床研究と旺盛な執筆活動も大きく寄与しています。その窪寺先生が舞台を教会に移し、懐疑を受けとめつつ、聴衆と共に教会におけるスピリチュアルケアの可能性を探し求めていく――本書はそのような真摯な試みの果実です。

スピリチュアルケアが必要になるのは、終末期の患者だけではありません。喪失の傷み、アイデンティティーの危機、生きる意味を見出せない等、その人のいのちや尊厳にかかわる苦しみに寄り添うケアであり、治療を前提とする医療の手では届かない領域に及びます。端的に言えば、その人を全人的に尊重することによって、その人自身が「本当の私」や超越的な存在（垂直関係）と出会い、他者との関係（水平関係）も回復していく――窪寺先生はそのようなアプローチであると述べています。究極のゴールはキリストであっても、相手が望まない限り直接福音を提示するわけではありません。

一方、教会の使命には、救い、受洗、教会コミュニティへの帰属という明確なゴールがありますので、キリストを宣べ伝えずして何の意味があるのかと疑念を抱かれるのも無理はありません。ディスカッションでも、それぞれの信仰や神学のアイデンティティーに立った質問が次々と投げかけられています。

しかし、具体的なケースやケアの実際、窪寺先生の人生の軌跡が物語られるにつれ、フロアからもスピリチュアルケアの必要性が熱く語られ、吉田隆先生がいみじくも「全人的講義」と評されたように、この講演のダイナミズムそのものがスピリチュアルケアの可能性を暗示しているかのようです。

奇しくも講演からほどなくして、私たちはパンデミックに襲われ、さらにウクライナ侵攻が追い打ちをかけ、全世界が計り知れない傷みの中にあります。ますます、スピリチュアルケアに目を向ける時が来ているのではないでしょうか。

JEA 社会委員会

第３３回信教の自由セミナー報告書

小岩井　信　社会委員長
日本同盟基督教団・子母口キリスト教会

前号（58 号）に記しましたように予定通り、今年３月に「第 33 回 JEA 信教の自由セミナー報告書」を発行しました。これには第 33 回信教の自由セミナー「東日本大震災から１０年を契機に考える―利他的な生き方を目指して―」（昨年 12 月 27 日から今年３月 30 日までオンライン配信）の内容が第１部として、また第２部として「コロナ禍とキリスト教界の課題―教会のありかたについて考えるために―」が収録されています。今回のセミナーにおいて、聖書的な利他とは「強盗に襲われた人の隣人になる」ことだと示されました。10 年経った今でも、福島第一原子力発電所事故はコロナ禍以上に、今なお解決の見通しが立たず、同時に今なお多くの人々が事故の被害の渦中または影響下にあり、問題は現在進行中です。「あなたも行って、同じようにしなさい」との主のみことばを聞いている者として、「平和利用、平和のため」との欺瞞的な国のかけ声によって押し進められた政策によって、苦しめられ痛めつけられている被害者の隣人と果たしてなっているのか否か、ならば「国家からの自由、国家との関係における自由」である「信教の自由」に生きているのか否か、そして何よりも主のみこころに従順であるのか否か、教会と自らの今までのあり方を省み、今後のあり方を正し、また国家との関わりを正す（それはセミナーの中でも触れられているように原発問題だけでなく、軍事基地の問題等でも言えることだと思います）、その一助として是非とも当報告書をご購読してくださるようお願い申し上げます。第２部はコロナ禍をめぐる教会の課題を、「信教の自由」に関する課題を主に

（Page 7 に続く）

JEA 青年宣教サミット 2022
「これからの青年宣教」

山下大喜　青年委員
日本イエス・キリスト教団・服部希望教会

1 月 24 日 (月) 青年宣教サミット 2022 が JEA 青年委員会の主催によって開催されました。大会のテーマは「これからの青年宣教」です。

コロナ禍の為、対面での集まりはかないませんでしたが、オンラインの恩恵を受けて全国から教職・信徒総勢 103 名が参加。まず、蔦田聰毅師（JEA 青年委員長・イムマヌエル堺キリスト教会牧師）を通して聖書が開かれ、主の御言葉が語られました。次に、水谷潔師（JECA 春日井聖書教会協力牧師）と、宇賀飛翔師（OneHope ディレクター）が発題。

水谷師の発題は「青年たちに恋愛と性を語る ―聖書から、愛を込めて、祝福を願って」をテーマに、青年たちの恋愛・性の現状・問題と、私たちが今の青年たちにどう関わっていけばよいのか等について語られました。バーチャル化が進む青年たちの性は、昔のように「乱れている」よりも、ポルノ等によって性が「破壊されている」と指摘。聖書に基づいた恋愛･性は、神の創造された祝福であり、大変良いものである。神が人類に与えられた性とは結婚関係における究極の愛の交わりである。性とは命を生み出すものである故に、いのちの責任が伴うと語られました。特に印象的だったのは､私たちが青年たちと恋愛･性という恥ずかしいと思われてきた話のできる信頼関係を築くことを強調されたことです。

次に発題の宇賀師（OneHope ディレクター）は、YouTube で話題の「聖書プロジェクト」について語られました。現在、OneHope は旧新約聖書の紹介やそれらの理解を助ける動画 (6 分前後) を約 150 本配信しています。現代に適応した伝道のアプローチについて、宇賀師がこの働きを始められた経緯を語られました。印象に残っているのは、「青年伝道の為に、私たちはこれまで

通りの同じことを無難に行ってきたのではないか。青年たちと一緒になってワクワクでき、共に成長できる創意工夫をしたプロジェクトが少ないように思う。青年宣教の仲間たちと共に主に祈り、導きを求めながら、ワクワクするような青年伝道を主の為にささげていきたい」と述べられたことでした。私自身、つい従来と同じ事をして無難に教会の働きを進めてしまう者ですが、今はこのことを受け止めて、これからの働きに少しでも反映させていきたいと願ってやみません。改めて、青年たちの心に響く伝道をしていきたいと教えられました。

発題の後、６つの分科会による学びと分かち合いの時間。①「恋愛・結婚・性についてどう伝えるか」（水谷潔師）、②「聖書プロジェクト」（宇賀飛翔師）、③「楽しいオンライン集会の作り方」（細田恒太朗師）、④「対面イベントの持ち方」（倉嶋新師）、⑤「０から始める青年宣教」(蔦田聡毅師)、⑥「高校生伝道・学生伝道相談室」（座長担当：スズキ知恵子師、吉澤慎也師）。どの分科会もコロナ禍で、主の知恵と導きの中で産み出された、現代の青年たちの心に届くための大変興味深い内容になりました。今後とも JEA 青年委員会の働きの為にお祈りをお願い致します。

（Page 6 から続く）

扱う社会委員会の視点から整理したものです。これも今なお完全には終息していない中で、コロナ禍を通して浮かび上がってきた私たち日本の教会自身の姿、そして国家との関わりにおける課題について省み、考える参考にして頂きたいと願っています。

社会委員会では「信教の自由セミナー報告書」の発行後、今は「憲法改正」問題に取り組んでいます。無論この問題への取り組みも今に始まったことではありません。2016 年には既に「その時に備えて　憲法問題 Q&A」を発行しています。しかし、コロナ禍の中で、そして今、殊更ウクライナでの戦闘を契機として「憲法 9 条への自衛隊明記」、「緊急事態条項の新設」を含む「憲法改正」実現の声が国家の側から一層大きくなり、国民の間でもその声は大きくなりつつあるようです。その傾向は、この夏の参議院選挙の結果次第では、更に加速することが危惧されます。それらの問題をやはり「私たちの信仰から考える」ために、憲法問題 Q&A（Part2) を今年の 11~12 月頃に発行すべく鋭意準備中です。どうぞご期待ください。なお好評でした既刊の「憲法問題 Q&A」を既にお持ちの方は改めて読み返し、まだの方は在庫がいくらかありますので、まずはそちらから読んで「その時に備えて」いただければと思います。どうぞよろしくお願い致します。

ＪＥＡアップデイト

ウクライナのためにお祈りください

2022 年 2 月 24 日にロシアによるウクライナ侵攻が始まりました。戦争は長期化の様相を見せており、多くの犠牲者と難民が出ています。また日本を含め世界の安全保障や政治、経済に大きな影響をもたらしています。JEA 理事会では 3 月 1 日付で加盟団体に祈りの要請を行い、ウクライナのために、ロシアのクリスチャンのために祈りの手を挙げるよう呼びかけました。また世界福音同盟やアジア福音同盟が主催する祈祷会にも参加し、世界中のクリスチャンの方々と共にウクライナとロシアの平和のため祈り続けています。

JEA 社会委員会は、武力によらない平和を呼びかける目的で「ロシアのウクライナへの軍事侵攻に対する JEA 社会委員会声明文」を 3 月 12 日に発表しました。また在日ロシア連邦大使館にウクライナ侵攻を止めるよう抗議文を提出しました。

JEA 援助協力委員会では、ウクライナ支援の取り組みを始めています。協力団体である、日本国際飢餓対策機構（ハンガー・ゼロ）、ワールド・ビジョン・ジャパン、救世軍はそれぞれの国際的つながりから東欧でウクライナ難民支援活動に携わっています。援助協力委員会では、支援の呼びかけを行い、ささげられた献金を 3 団体を通じて、現地で支援活動をしている方々にお送りしています。詳しい報告は援助協力ニュースで行っていますので、そちらをお読みください。援助協力委員会では人道支援はもとより、「教会から教会への支援」を基軸としています。今後、ウクライナの教会やクリスチャンの方々、日本におられるウクライナ難民の方々を支援するためにも献金を用いることができればと願っております。情報をもっておられる方はぜひ JEA 総主事までご連絡ください。

引き続きウクライナのためにお祈りください。（1）ロシアが軍事侵攻を止め、軍を撤退させるように、ロシアとウクライナに平和がもたらされるように（2）停戦協議がそれぞれのリーダーの思惑を超えて、神さまの支配の中で進められていくように（3）世界のリーダーたちが知恵をもって、戦争を止めるため、平和をつくるために働くことができるように（4）ウクライナの国内外の難民のために（5）ウクライナの教会とクリスチャンの兄弟姉妹のために、またロシアのクリスチャンの兄弟姉妹が平和の架け橋となれるように（6）日本のクリスチャンも平和のために祈り、平和をつくる者と造り変えられるように。

アジア 2022 大会について

昨年、オンラインにてアジア 2021 大会が開催され、日本から多くの方々にご参加をいただきました。本年、アジア 2022 大会が 10 月 17 日（月）～ 21 日（金）タイ・バンコクにて開催されます。アジア福音同盟（AEA）、アジア神学協議会（ATA）、アジアローザンヌ委員会（ALC）が協力して開催するアジア地域全体を包括した教会宣教会議です。コロナ感染が少しずつ収まりつつある中で、対面での開催（600 名規模）を目指しています（各国の水際対策の違いなどがあり、感染状況も余談を許さない中ですが）。アジア、日本の教会のリーダー、次世代リーダーに招待状が送付されています。この大会の実現と祝福のためにどうぞお祈りください。JEA 総主事は実行委員の一人として奉仕しています。また 2024 年には第 4 回ローザンヌ世界宣教大会が韓国で開催予定となっています。世界の福音派の中で、JEA も神の国の建設のため貢献できるようお祈りください。

JEA 総務局から

◆第 37 回 JEA 総会を迎えようとしています。今年は 3 年ぶりにつま恋に集まって対面での総会が実現できそうです。感染対策に留意しながら、3 年ぶりの交わりと研鑽の時を楽しみにしています。代議員の皆さまのご協力を宜しくお願いいたします。

◆ JCE7 に向かって多くの準備が急ピッチで進められています。お祈りとともに経済的必要のためにもご協力ください。

◆ウクライナのための祈り、支援にも引き続きご協力をお願いいたします。

◆ JEA への問い合わせ、ご要望があれば、総主事までメールにて遠慮なくご連絡ください (admin@jeanet.org)。

日本福音同盟

心を一つにして福音の信仰のために力を合わせて戦い（ピリピ 1:27）

JEA ニュース 58 号　　発行・日本福音同盟（JEA）
発行者：石田敏則　　編集者：岩上敬人
〒 101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCC 内
TEL : 03-3295-1765　　FAX : 03-3295-1933
email : admin@jeanet.org
郵便振替 : 00150-8-68442 (口座名義 : JEA)